

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録（2014.12）平成25年度:54-56.

『プリセプティとの関わりの中で見出す自己発展の方向性』

鉄川 洋平

## 『プリセプティとの関わりの中で見出す自己発展の方向性』

旭川医科大学病院 手術部ナースステーション 鉄川 洋平

平成 24 年度中堅者教育研修を受講し、自己課題を立案・実施・評価する過程の中で、私は多くのことを学ぶことができた。

研修ではリーダーシップを発揮するうえでの自己の特性を知る事ができ、知識を深め、全国から集まった受講者との意見交流から多くの学びを得て、理論的・倫理的思考能力を高める事が出来た。

研修終了後、後輩指導、特にプリセプティとの関わりを通して、中堅者としての能力向上を目的とした自己課題を設定した。

半年間の実践期間には、未熟だったアサーションスキルの向上、PM 理論によるところの集団維持機能（M 機能）の発達、自己啓発を目標とした取り組みを毎日意識的に行った。

日々の実践では、まずプリセプティへの声掛けと見守りを重視して行った。そして、教育的関わりの中で、その教育内容、話法や態度、思考過程などについて自己の振り返りを行った。他のスタッフの協力も得ながら、プリセプティの反応や成長の度合いを理論的・倫理的に検討・考察し、その後の関わり方や指導内容等の具体策を決定し実践した。実践中は看護師長やプリセプターエイドの助言を得て、実践内容と評価が主観に固執しないようにした。また、積極的な院内外研修や学習会への参加により自己啓発に努めた。

結果、研修受講前と自己課題を達成した後を比較すると、コミュニケーション能力、リーダーシップ能力、マネジメント能力、倫理的思考能力の向上が成されたと自己評価する事ができ、他者評価も受けることができた。また以前よりも、経験的要素に理論的・倫理的要素を加えた手術看護実践が可能になった。このような結果を生み出したのは、理論を基にした意図的なコミュニケーションの実践と、対象の多角的な理解だと考える。また、日々自己の発展を意識していたことが能力の向上に繋がったと考える。後輩への教育・指導の場面を通しての自己の発展は、対象を理解し自己を振り返り、その過程の中で自己発展への方向性を見出すことで、実現できると考える。

中堅者研修を受講することで、私は自らを発展させるための方向性を知り、方法を学び、取り組むことが出来た。未だ中堅者として未熟な部分も多く、新たな学びが多い毎日であるが、今回の学びを活かし、質の高い手術看護の提供に繋がっていきたいと考える。

## 中堅者受講者報告会

### 『プリセプティとの関わりの中で見出す 自己発展の方向性』

旭川医科大学病院  
手術部ナースステーション  
鉄川 洋平

## 当院紹介

所在地：北海道旭川市  
病床数：602床  
昨年度手術件数：7105件  
スタッフ数：52名  
師長1名・副師長3名（うち手術看護認定看護師1名）  
手術室数：11室+DS2室



看護部人材教育モットー

『育てるのではなく、育つ過程  
(思考、判断、行動)を見守り、声をかけ、  
ともに考える環境を作る』



## 中堅者受講前

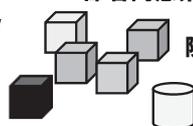
看護職経験年数：5年目

手術室経験年数：5年目

部署内感染対策チームのリーダー

リーダーレベルIV

業務リー  
ダー



院内感染リンクナース

・前年度からプリセプターの役割を担う（今回2回目）

## 中堅者受講時

・アサーションスキルが未熟

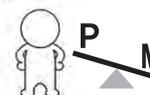


・リーダーシップを発揮する上で、

P機能が強く、M機能が弱い

<課題遂行機能>

<集団維持機能>



・業務において効率重視的な考えが強い

効率重視！！



・同じようなことを悩み、考え、  
実践している他の受講者との情報交換

## 中堅者受講後

### 自己課題

『後輩指導（特にプリセプティに対しての関わり）を通じ、  
対象者の知的側面と技術的側面、論理的側面の成長への  
一助となれるように、これまでのような課題遂行機能  
（Performance機能）を重視した関わりだけでなく、  
集団維持機能（Maintenance機能）を発達させた関わり  
が行えるようになる』



新人はできない人

でも、

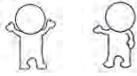
できるようになろうとしてる人



人は誰でも成長したいと思っている。  
出来るのは成長を助ける事

## 実践内容

- ・倫理的成長への関わり・・・  
実際に体験したことを振り、ともに考えてみる



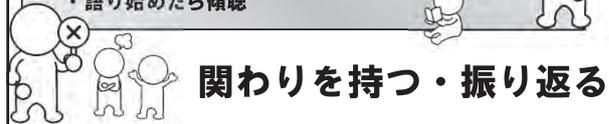
- ・知的側面・技術的側面成長への関わり・・・  
成長度合いに応じた  
ティーチングとコーチングの使い分け



## 実践内容

関わりの中で意識して行ったこと  
(できないながらも、頑張りました…)

- ・毎日の声掛け
- ・自らのアサーションスキルを意識した  
コミュニケーションの実践
- ・YOUメッセージではなく、Iメッセージ
- ・否定的な発言、態度をしない
- ・共感とペーシングを意識
- ・語り始めたら傾聴



関わりを持つ・振り返る

## 実践内容

- ・自己啓発活動  
院内外の勉強会への参加  
日々の自分の看護実践を振り返る  
継続した学習の実行

『教育に限界はある。

教えるのではなく教育する側が

【本物】になればよい』

東井義雄

## 結果

- ・プリセプティの技術・知識の向上  
(1人でできることが多くなった)
- ・自己認識において否定的に捉える  
ことが少なくなった。
- ・モチベーションの低下なく仕事をしている



- ・コミュニケーション能力 ↗
- ・他スタッフとのコミュニケーションの変化
- ・マネジメント能力 ↗
- ・倫理的思考能力 ↗



手術看護実践

+UP倫理的要素  
+ UP経験的要素  
+ UP理論的要素

## まとめ

- ・理論を基にした意図的な  
コミュニケーションの実施

自己発展を意識



対象の理解

自己の振り返り

対象の多角的な理解



対象の反応

自己発展の方向性

御静聴ありがとうございました